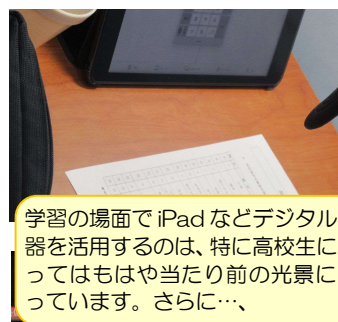


やる気発生装置

デジタル化の時流のなか、あえて「紙」

もう小学生や中学生には当たり前過ぎて実感がないことなのかも知れませんが、令和に入って学校や塾でのデジタル化はものすごく加速しています。高校生はみんな iPad やタブレットを持ち、授業のプリントや課題がデータで送られてくる、取り組んだ課題は写真に取ったり iPad に入力したりしたものを送信して提出、そういうことも日常になっています。僕もその可能性には大きく注目していて、特にコロナの時期には iPad を2台購入して、画面にペンで書き込みながら授業したりしていました。いまは教えるときにはだいたい紙を使う形に戻っていますが、画像を見てもらったり調べ物をしたりする際には iPad は欠かせません。この「やる気発生装置」もパソコンで書いてますし、同じ物を原稿用紙で作れるかというところまず無理です。また、データの形で保有している教材や入試問題、テスト問題などの情報量は膨大なもので、もしそれが全部本とかプリントの形で教室にあったとしたら、これは冗談抜きで床が抜けます。そこはどうしてもデジタル化が必要な部分です。そんなふうに僕もデジタルに依存しているわけですが、何でもデジタル一本槍にしているのか、といえば、それには疑問を感じている立場です。

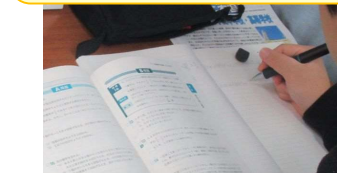
教育でのデジタル化先進国であるスウェーデンやフィンランドで、教科書は紙に戻そうという動きがあるようです。日本も教科書のデジタル化構想が進んでいますが、もともと北欧の国々の取り組みを先進的だとありがたがる国民性とも相まって、この影響でブレーキがかかりそうな気がします。たしかに、画像や動画の形で気軽にさまざまな知識を得られること、データのやりとりを簡単に行えることで、デジタル機器がもたらす便利さ、豊かさはもはや手放せないものになっています。情報を書き出して整理したり、図にして考えるといった具合に、知識といっしょに頭を使う局面では、どうしても紙で見渡せることや直接書き込めることに軍配が上がります。当塾でハイレベルな勉強をしている人達を見ても、デジタル機器を十分に活用しながら、要所要所ではしっかり紙を使っているところが共通しています。環境や SDGs の面もあって、ペーパーレス化は避けられないかもしれませんが、こと学びの場にあっては、紙を使ってより充実した勉強ができる部分については惜しむことなくふんだんに紙を使っていきたい、というのが僕の考えであります。



学習の場面で iPad などデジタル機器を活用するのは、特に高校生にとってはもはや当たり前前の光景になっています。さらに…



教室にある紙の本だけでも膨大な量なので、デジタルデータ化していなければさらに紙が増えて、とんでもない事になりそうです。



それでも、デジタル一本倒ではなく、必要な場面では紙をしっかりと使うことは欠かせないというのが、あれこれ試してみている実感です。

当面の教室予定

12/11(水)~12/13(金)

16:00~22:00

12/14(土)

10:00~12:00

(午後はお休みです)

12/15(日)

16:00~21:00

※21時以降、教室に生徒が残っていない場合には閉室させていただきます。

※天候や各種感染症の状況等により、変更させて頂く場合があります。